

令和8年度（2026年度）熊本県立芦北高等学校 第1学期終業式

校長あいさつ

令和8年（2026年）7月17日（金）草野 貴光

今日、1学期の終業式を迎えました。学校は、入学式、始業式、終業式、卒業式などの節目を迎えながら前に進んでいきます。節目を大切に、振り返りをしながら、これから思いをつないでいきます。

体育大会などの生徒会行事、各種発表会や部活動などに皆で関わってくれました。よく頑張るあなたの姿勢に感謝しています。また、2名の卒業生が教育実習生として来てくれたのも大変嬉しいことでした。

沢山の頑張りから一つだけ触れさせてください。高校野球夏の大会、3F橋口さんは9回を159球で投げ抜きました。正しく熱投。この粘り強さ。本当に素晴らしい。人には支えと背景、物語あり。皆さんそれぞれの物語を紡いでいきましょう。

梅雨が明け、猛暑が続いています。一方で、6年を経過した令和2年7月豪雨は忘れてはなりません。天候に関心を持ち、防災意識を高く持つことが求められます。自分の身を自分で守る、互いに助け合う、誰かを助けることを考え、行動できる人になります。熱中症対策、感染症予防も自分と周りの人を助ける取り組みです。

さて、1学期は、1年間の半分ほどの行事が集中します。時の流れが早く慌ただしく感じた人もいれば、じっくりと時が流れた人もいたと思います。1年生、2年生、3年生でも時間の感じ方は違います。そして、考えを巡らせることも異なります。自分自身が思い通りにならないもどかしさを感じるのも高校生。日々の生活、学び、人との語らいで、そのもどかしさを少しずつ解消し、前に進む。自分の一番の理解者は自分。自分と語らうことが重要です。

昨日の自分が今日の自分を助けて、今日の自分が明日の自分を助けます。自分を助けるのは自分、自分を一番応援できるのも自分。明日の自分につながる視点で、この1学期を振り返ったとき、どのような思いを抱きますか。

日本人の美德とされることの一つに「人の思いや考えを察する」ということがあります。この察することは実は難しい。様々な経験をしたり、多くのことを見聞きたり、考えを巡らせることで察することが少しずつできるようになっていきます。実際には、人がどう感じたり、考えたりしているかは言葉にして話したり、表現したりしないと分かりません。「私のことを知ってほしいから、あなたのことも教えて」という姿勢で直接、顔を合わせて話をするのが大切だとつくづく実感します。話もしないで「私のことを分かってほしい」は誤解を招く原因にもなります。これから人生経験

を重ねていくあなただからこそ、まずは言葉を大切に良い関係を紡いでもらいたいと願います。

そして、決して忘れてならないのは、「自分が言われて嫌なことは言わない、自分がされて嫌なことはしない」こと。安易にいじりをしない。「いじめをしない、させない、受けない」ためにも。いじめは許されません。被害を受けた人は必ず守ります。加害を加えた人には真剣に考えてもらいます。これは皆の約束です。

ところで、あなたは、水がいっぱいに入ったバケツはどう持ちますか？なるべく力が入るように、こぼさないようにするために体に腕を着けて持ちます。体から離して腕を地面に水平にするように持つととても重く感じます。重いものは体の軸に近いところで持ちます。これは色んなことに置き換えられます。何をするにも自分のことなのに自分から離して人任せ、決めるのも人任せ、何か起きたら人のせいにする。これでは、何もうまくいきません。自分の大切な荷物を人に投げ出している状況です。自分にとって重要なことほど、自分の中に置いて自分事にします。

その上で、常に「自立」することを考えてもらいたい。高校生だから自分の足で登校します。自分の足で歩き出すから自分への責任感も持てます。学校に家庭での生活を持ち込むと他者への配慮に欠けてしまいます。社会と接点を持つことが成長を助けます。その方が、楽しく、充実感が得られます。通学方法については、それぞれに事情はありますが、是非、考えてください。

夏休み、3年生は、今日の進路別説明会を機に進路活動が本格化します。今を大切に、正しい情報と助言から自分で判断して進路実現につなげましょう。2年生は、生徒会や部活動など学校の中核として活動していきます。成長のチャンスです。1年生は、自分の目線を高くし、視野を広げ、心を整えられるようになりましょう。

それでは、8月28日、2学期始業式にワクワクする高校生活を送れるよう元気に会いましょう。